



## 「石炭王」菊池寛実氏と馬頭高校の関わりについて

馬頭高校の校長室には、歴代の校長ではない一人の写真が掲げられています。この人物は明治 18 年旧馬頭町健武（当時は健武村）で生まれた菊池寛実（きくち ひろみ）氏といいます。菊池氏は、昭和 20 年代の本校の草創期に多大な教育機器や備品を寄贈、教育福祉基金を寄付してくださった、言わば馬頭高校の恩人とも言える方です。郷土出身ではあるが同窓生ではない菊池氏によって、創立して間もない馬頭高校は大きな恩恵を受けました。

菊池氏は馬頭高等小学校を卒業後、宇都宮の私立尋常中学校に進みましたが、ある事件がきっかけで退学処分を受けてしまいました。東京に出て別の中学校に入りましたが、そこも 1 年余りで飛び出し、私立東京法学院（現在の中央大学）に入学しました。この時期に菊池氏は足尾鉬毒事件の田中正造に出逢ったことが人生の方向性を決定づけました。田中の正義感に感銘を受け弟子入りを志願しましたが断られ、実業家に転身することになったのです。20 歳で起業し、弱冠 25 歳で炭鉬の社長に就任しました。折からのエネルギー需要の高まりによって石炭販売業で大成功を収め、後に「石炭王」と呼ばれ莫大な財産を築きました。石炭業だけではなく、幾つもの会社の社長や役員に就任しましたが、菊池氏の人生は厳しい時代の変遷とともに、借金、破産等の苦難続きの歳月だったそうです。



馬頭高校『20 年誌』によれば、菊池氏が寄贈した自動耕運機 4 台を保有する本校は、全国高校一の農業機械化推進校でした。学校の耕運機は地元農家にも貸し出され、地域にも貢献しました。

菊池氏は昭和 33 年に石炭業界への貢献により藍綬褒章を受章し、昭和 42 年に 82 歳で没しました。